

【アンケート調査集計結果】

回答団体数 【地区別】	佐久	上小	諏訪	上伊那	下伊那	木曾	松本	北安曇	長野	北信	合計
	15	11	6	12	16	8	17	8	13	11	117

○支援金活用事業の効果についておうかがいします

【問1】支援金活用事業の実施によって地域活性化への効果は現在も続いていますか。
次の番号から一つお選びください。

- ①現在も効果が継続している。
- ②支援金活用事業を実施した時は効果が見られたが、現在は見られない。

①	109
②	8

「①」を選んだ方は【問2-1】及び【問2-2】へ、「②」を選んだ方は【問3】へお進みください。

【問1】で「①」を選択された方におうかがいします。（【問2-1】から【問2-2】まで）

【問2-1】理由を次の番号から一つお選びください。

- ①支援金を活用した事業を引き続き実施している。
- ②支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施している。
- ③市町村又は他団体が類似の事業を実施している。
- ④その他

①	66
②	28
③	12
④	3

【問2-2】どのような効果がありますか。

また、その効果を持続させるために工夫されている点がありましたらお書きください。

◆どのような効果がありますか

- 県外の災害ボランティア団体と防災協力を結ぶことができた。
- 中心市街地の回遊性の向上、特に親子連れが、まちに訪れる機会が増え、にぎわい創出に貢献できた。
- 官民連携による新しい形のアンテナショップを首都圏に開設し、情報を発信し続けることで、地域の認知度向上と来訪意欲の醸成につながっている。イベントに来場するリピーターが増えている。
- 作品制作のため滞在した芸術家4名が地元住民と結婚・定住し、赤ちゃんが生まれた。伝統とアート、都市と地方を結ぶ祭として機能している。
- 年々ジビエの売上額が増加。解体技術が向上し、臭みもなく肉の評判も良いことから、取扱店が増加している。
- 観光客からの問い合わせに対し、自市町村の観光案内だけでなく、他市町村の観光も案内できるようになり、観光客の周遊につながっている。
- 農産物のコンクールでの上位入賞が続き、知名度が向上してきていることから、生産者も意欲を持って取り組んでいる。
- 狩猟免許（わな猟）所持者が増加している。わなによるニホンジカの個体数調査の捕獲実績が上がっている。

◆工夫されている点

- 各種活動時にはボランティアに声を掛け協力を頂いている。行政機関・社会福祉協議会・新聞社・放送局等に幅広く後援をお願いし、活動の情報を伝えるようにしている。
- 毎年、継続して活動を実施すること。また、類似事業への協力も惜しまないこと。
- 地域の皆さんに関心を持っていただけるよう、研修会の方法を工夫したり、新しい情報を提供したりするよう心掛けている。
- その情報を必要としている人に届くように、単なるバラマキはしない。
- 事業を実施する時期を変えたり、新しい参加者が集まりやすいようにしている。
- 地域にお金が落ちるよう、なるべく地域内の企業でまかなう。
- 活動資金が極めて少ないので、公民館の行事とタイアップして実施している。

【問4】へお進みください。

【問3】理由を次の番号から一つお選びください。

- ① 支援金を活用した事業と同じ事業は行っていないため。
- ② 事業規模が小さかったため。
- ③ 事業実施方法に問題があったため。
- ④ その他

①	5
②	0
③	2
④	1

○団体の活動状況についておうかがいします

【問4】支援金活用事業を実施してからこれまでの間、団体の活動を継続していますか。

- ① 継続している。(一旦休止した後、再開した場合を含む。)
- ② 休止・終了した。

①	106
②	11

①を選んだ方は【問5-1】～【問5-5】へ、「②」を選んだ方は【問6-1】及び【問6-2】へお進みください。

【問4】で「①」を選択された方におうかがいします。(【問5-1】から【問5-5】まで)

【問5-1】団体設立からこれまでの活動年数を記入してください。

5年以下	36
10年以下	26
20年以下	17
20年超	22
不明・回答なし	5

【問5-2】設立時及び現在の構成員数を記入してください。

構成員が増加	54
構成員が減少	23
構成員に増減なし	14
不明・回答なし	15

【問5-3】現在の主な事業実施状況を次の番号から一つお選びください

- ① 支援金を活用した事業と同様の事業を実施している。
- ② 支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施している。
- ③ 支援金活用事業とは全く関係のない別の事業を実施している。

①	67
②	34
③	5

【問5-4】今後、引き続き活動していく上で最も必要だと思われることは何ですか。

次の番号から一つお選びください。

- ① 資金の確保
- ② 人材の確保
- ③ 先進事例等の情報収集
- ④ 他の団体との連携・交流
- ⑤ その他

①	50
②	36
③	2
④	14
⑤	4

【問5-5】最近の事業の実施状況や団体の活動状況など自己PRをご自由に記入してください。

(活動状況の様子ที่わかる資料や新聞記事などがありましたら、添付してください。)

○現在の構成員は7社になっており、各社が雪窓向原線沿線の管理している花壇の緑化、また各社敷地内の植栽を行い、景観美化に努めている。当団体も財政は厳しい状況ではあるが、景観美化に対する思いからこの活動を続けている。(佐久地域 大林地区景観形成委員会)

○さくら国際高校に丸窓電車が設置されていることを多くの方に認知され始めている。より多くの方に認知してもらい、保全活動に協力してもらえるような体制を築くとともに、保育園児や小学生の利用も多くあることから、多世代との交流を積極的に図っていく。(上小地域 NPO法人 さくら育英会)

○「あきん堂ネットショップ」、店舗「商人堂」をベースに高齢者や独居世帯の生活全般におけるセーフティネットとなる「商人堂ライフサポート」を今年度より構築し、その実証検証を行っている。地域で見守り、地域で生活する地域互助型社会を構築することで、共に暮らせる町づくりを目指した活動を継続している。(諏訪地域 NPO法人 維新塾)

○今は新たにボランティアグループ「城前のサクラ見守り隊」として会を立ち上げて活動している。以前の道路工事の影響が年々樹に出ているのが大変気になるが、これからも地元住民の方々・行政・ボランティアが一丸となって良い形で「城前のサクラ」を残していければと思う。(上伊那地域 辰野ボランティア・市民活動ネットワーク運営委員会)

○目の前に見えてくるものを一つ一つ取り組んできた。2015年は竹チップの農業活用が少しずつ進展し、地域のコミュニティとなる農産物直売所を開設することが出来た。今後は現在不定期開催している朝市を、営業日カレンダーを作成できるような朝市へ発展させたい。(上伊那地域 竹の会 夢里人)

○おもてなし事業の広がりという意味も含めて、商工会議所の事業である毎週金曜日開催の買い物困難者対策事業を実施する中で、お休み処を設けてお茶の接待やコミュニティーの場を設置している。(飯田地域 飯田中心商店街連合会)

○小学生とその保護者が共に森にある設備の修繕作業を行ったり、保育園と協働して幼児たちが森の材を活用した遊具を製作したりするなど、こどもたち自身が中心となった森の環境整備作業を継続的に進めている。(下伊那地域 NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター)

○子育て世代が子どもを育てやすい環境にするため、その不安要素を解消できる事業を進めている。(松本地域 一般財団法人塩尻市振興公社)

○メンバーそれぞれが自分の仕事、家庭の状況のある中で、無理なく楽しく活動してくれていること、これが継続の秘訣だと思う。(木曾地域 妻籠宿里山整備つまごえん)

○平成26年10月1日に法人格を取得し、一般財団法人ながの緑育協会となる。引き続き、長野市の緑育の推進に向けて事業を展開する。(長野地域 ながの緑育協会)

【問7】へお進みください。

【問4】で「②」を選択された方におうかがいします。(【問6-1】から【問6-2】まで)

【問6-1】支援金活用事業を実施した後、休止又は終了までの年数を記入してください。

1年	3
2年	5
3年	1
5年	1
不明・回答なし	1

【問6-2】活動を休止又は終了した理由を次の番号から一つお選びください。

- ①所期の目的を達成
- ②資金不足
- ③人材不足
- ④その他(具体的に下欄にお書きください。)

①	6
②	1
③	0
④	4

○代表者の団体が引き継いで取り組んでいる。発展的に解消した。

○地区全体の事業として定着したため、団体としての活動は休止した。

【問7】その他ご意見、ご要望がありましたら、ご自由に記入してください。

○子育て支援を目的とする団体に対する支援制度が限られ、資金を要する活動が計画しにくくなっている。特に親子で楽しむ（親にとって子育ての喜びを感じられる）催しに対して、何か特別な支援があればありがたい。

○創業体験の場から地元商店街の空き店舗への誘導など、ノウハウがあるので公的な使い方として検討して頂きたい。

○ソフト事業は継続が大切ですが、資金の確保に苦勞する。県の助成もずっとは続かないと思いますので、民間の既成事業の紹介をしていただけたらありがたい。

○事務手続きをうまく進める例などを分かりやすく指導していただけるともっと活用事例が増えるのではないかと思う。

○活動資金の捻出に苦慮している。基本的に無償ボランティア活動であるが、事務費及び開催経費（謝金・旅費・会場費等）は、公的資金に頼らざるを得ない。

○PRの仕方、経営的に成り立ってゆくことの大変さなど、継続してゆくことの大変さを痛感している。是非、御指導などお力を貸していただきたい。

○法人としての収益につながりにくい公益事業を補助して頂いた背景から、支援金の支給がなくなると事業自体が継続できないといった現状がある。もともと、収益事業であれば助成金の申請はしなかったと考える。やはり公益事業は、NPOではなく行政が資金を用意して行うべきと感じる。

○補助金のある時だけの事業にならないように気を付けている。おもてなしの気持ちは特別ではなく、普段の気持ちそのままが大切で、それが商店街の雰囲気にもつながると感じる。また来なくなる商店街を目指しているの、各店継続して取り組んでいきたい。

○活動して欲しい世代の関心が弱い。多方面からの啓発を期待する。

○支援金事業を批判する方がいることが実に残念です。公的な広報で知って頂いたら意識が変わるのかなと思う。

○本事業は特産品の開発などのような将来の具体的な利益収入を想定した初期投資的な物ではなく、イベントによる地域住民の生活にアクセントを持たせ、また地域の知名度の向上を狙ったものであり、事業費の自己負担の無いカテゴリーを制度内に設けてほしい。

○効果が上がっている事業に引き続き支援してほしい。

○お陰様で順調に継続推移している。視察対応が多く少し大変だが、おもてなしの心で対応している。視察された方が、同様の形態で事業が立ち上がったお話を聞き嬉しい。

○わな猟による鹿猪等の捕獲量が増えることで、解体施設の利用が増えればと思う。また、本支援金を使って、それなりの実績をあげている団体に対する奨励金若しくは使いやすいフォローアップ補助制度を作ってもらえればと感じる。

○実行委員会としての活動は終了しているが、この事業を通して関係地域（5市町村）の繋がりは継続しており、観光イベントや情報交換等、今までなかったものを展開できている。